

第1学年 社会科学習指導案

指導者 梶原 隆一

1 単元名 世界の諸地域「南アメリカ州」

2 単元について

(1) 生徒観

1年2組は、男子20名、女子20名の計40名のクラスである。学習意欲に差はあるものの挙手や発言は1年生4クラスの中でも比較的活発であり、自分の考えを仲間に伝えたいという前向きな気持ちを持つ生徒が多い。

以下は、平成28年4月に実施した標準学力調査における「社会科の推移」である。

正答率	教科の正答率			観点別正答率			
	教科全体	基礎	活用	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
校内平均	80.5	83.1	67.9	71.6	75.9	78.5	80.9
全国平均	60.6	64.1	44.0	50.1	55.3	61.1	59.2

上記の表だけでなく、定期テストやワークシートを見ても、暗記など一問一答のような物は得意だが、自分の考えを記述しようとするのは苦手な生徒が多いことがわかる。

(2) 教材観

本単元は、大単元「世界の諸地域」の中単元である。日本と対蹠にある南アメリカ州には、長大なアンデス山脈や流域面積が世界第1位のアマゾン川が見られたり、寒帯から熱帯までの多様な気候が分布していたりするなど、豊かな自然が広がっている地域である。特に、アマゾン川流域には、世界最大の熱帯林（セルバ）が広がっており、大量のCO₂を吸収することから「地球の肺」とも呼ばれている。歴史的には、先住民が自然と共生しながら独自の文化を築いていたが、16世紀になると、スペインやポルトガルによって植民地支配を受けることになった。以降、現在に至るまで、奴隷として強制的に連れてこられたアフリカの人々や、ヨーロッパ・アジア各国からの数多くの移民が南アメリカ州に流入したことにより、混血が進み、多民族国家が形成されている。見方を変えると、南アメリカ州は、それぞれの民族の伝統が混ざり合った独自の文化を持った地域とも言える。

産業では、長年モノカルチャー経済に頼ることが多かったが、脱却に向けて、どの国も工業化などで経済発展を進めようとしている。特に、ブラジルは、GDP世界第7位（2014年）、航空機生産世界第4位（2014年）となるなど、南アメリカ州の中でもめざましい経済発展を遂げた国の一つである。しかし、そんな経済発展の一方で、熱帯林を伐採し、鉱産資源開発のための道路や線路を造ったり、さとうきびや大豆の増産のために畑地開発をしたりと、急速な開発による環境問題も出てきている。

南アメリカ州は、歴史的に階層社会であったため、貧富の差が大きかったわけだが、そこに、経済成長による経済格差が重なり、貧富の差が更に拡大してしまった。事実、ブラジルでは富裕層の上位10%の人たちが所有する資産が、総資産の43%という統計データ（2011年）も発表されている。また、経済成長により農村部と都市部といった地域間での所得格差が広がったこともあり、農村部から都市部への移住者が急激に増えている。今年、夏季オリンピックを開催したブラジルでは、人口の6%にあたる約1200万人がスラム（ファベラ）に住んでおり（2010年）、それに関わる諸問題が深刻になっている。

(3) 指導観

本単元は、『中学校学習指導要領』地理的分野の内容(1)「世界の様々な地域」における、「ウ 世界の諸地域」の中の「(オ) 南アメリカ」にあたる。教科書通りに学習すると、アジア州→ヨーロッパ州・・・という順に学習し、5番目に南アメリカ州を学習するわけだが、本校では、南アメリカ州を2番目に学習する単元に設定した。その理由として、教科書の学習配列が、世界の諸地域→日本の諸地域→身近な地域というように、自分の生活に近くなっていくことや、学習指導要領で州を学習する順番に特に拘束はないことを考慮し、学習する州が生徒にとって徐々に近くなっていくという流れの方が、より理解を深めやすいと考えたからである。学習する州の順番は以下の通りである。

①アフリカ州→②南アメリカ州→③ヨーロッパ州→④北アメリカ州→

⑤オセアニア州→⑥アジア州

『中学校学習指導要領』では、内容の取り扱いについて次のように示している。

「州ごとに様々な面から地理的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること。その際、主題については、州の地域的特色が明確となり、かつ我が国の国土認識を深める上で効果的であるという観点から設定すること」

このことを受けて、南アメリカ州の自然・歴史・文化・産業の地域的特色を大観した後に設ける主題を「経済発展」とした(『中学校学習指導要領解説社会編』では、「森林破壊と環境保全」を主題例としている)。このように主題を設定した理由として、今年度から地理的分野の教科書が改訂されたことがあげられる。多くの教科書で南アメリカ州の学習の際に経済発展にともなう環境問題だけでなく、都市問題(スラム人口の増加について)も取り扱っている。新たに加わった事象も取りあげることで南アメリカ州の地域的特色がより明確になるのではないかと考えた。

その際、都市問題を例にとると、「経済的に貧しい人が多い」という表面的な現状認識を超えて、なぜそうなっているのかと掘り下げたり、表面的な現状認識を問い直したりすることを通じて、社会の有り様をきちんととらえさせる授業を構成していく。

3 単元の指導目標

- (1) 南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究させる。
- (2) 南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 南アメリカ州の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、人々の生活の様子や地域的特色について読み取らせたりまとめたりさせる。
- (4) 南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、地域的特色を理解し、その知識を身につけさせる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	南アメリカ州の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、人々の生活の様子や地域的特色について読み取ったりまとめたりしている。	南アメリカ州における経済成長について追究する学習主題を基に、地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

7 本時の授業

- (1) 日 時 平成28年10月 1日(土) 10:00~10:50
- (2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 1年2組教室
- (3) 題材名 「なぜ、経済が発展しているのに、ファベラがなくなるのだろうか？」
- (4) 本時の指導目標
- ・ブラジルを事例にして、経済発展をしている国の中にスラム(ファベラ)が存続する有り様について、その理由を表現することができる。
- 【社会的な思考・判断・表現】
- (5) 本時で期待する生徒の姿
- ・「本当にそうなのか」、「なぜなのか」と社会の有り様を思考し、自分の社会的な見方や考え方を強めたり、新たに作りかえたりすることができる姿。
- (6) 本時で期待する生徒の姿を引き出すための手だて
- ①「視点を変える」活動
- ・展開1で「なぜ、経済が発展しているのに、ファベラがなくなるのだろうか」(以下 学習課題とする)について、教科書の記述を参考に自分なりの結論(仮説1)を表現させる。
 - ・展開2で仮説1について、仮説1に対する問い直しの視点に立ち、資料を用いて学習課題について掘り下げていき、仮説2を導きださせ、ファベラが存続する理由について表現させる。
- ②「視点を変える」活動を効果的にする教師の働きかけ
- ・社会的事象をとらえるための適切な資料を投入する。
 - ・ホワイトボードを用いて、視点が変わる様子を表出させる。
- ③「深く考える」授業のための題材・教材・学習課題
- ・今年、夏季オリンピックが開催されたブラジル・リオデジャネイロ。開催前から、ジカ熱・スタジアム建設の遅れ・治安の悪化・ドーピング問題など様々な話題が、日本でも報道されてきた。生徒にとって南アメリカ州の学習は、心的距離が遠いこともあり、身近に感じることは少ないと予想されるが、タイムリーな題材であることや次期オリンピック開催地が東京(日本)であるということと考えた場合、少しは身近にとらえてくれることであろう。ブラジルは、21世紀に入り、「BRICS」として経済成長を期待されてきた国の一つであり、2014年の名目GDPが世界第7位と世界のトップ10に入る経済規模を有する国である。しかし、その一方で、スラム(以下 ファベラとする)で暮らす人口は増え続け、2010年に行なわれた国勢調査によると、人口の6%にあたる約1200万人がファベラで暮らしているという結果が出されている。リオデジャネイロ市に着目すると、市内には500カ所のファベラがあり、市民の4人に1人がそこで暮らしているという結果も報告されている。そこで、本授業では、上記にもあるようなブラジルが持つ経済的な矛盾に注目することを考えた。学習課題に対して①教科書に記述されていることをとらえること、②教科書に記述されていることを問い直すことという過程を通して、自分なりの結論を吟味し、改善・発展させていくという本校の全体研究で目指していることにも関わることができる題材であると考えている。

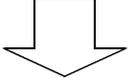
(7) 展開

	指示・発問など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入 15分	<p>〔1 学習課題の確認〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは何の写真でしょうか。 ・ブラジルの輸出額はどのように変化しているでしょうか。 ・ブラジルの人口はどのように変化しているでしょうか。 ・ブラジルのGDPはどのように変化しているでしょうか。 ・以上のことから、ブラジルの経済はどのように変化してきたといえるでしょうか。 ・この2枚の写真は、どちらも今年オリンピックが開催されたリオデジャネイロ市の写真である。右の写真のような場所を何というか。 ・この2枚の写真を見て、どう思いますか。 	<p>(T:教師 S:生徒)</p> <p>T: 質問する S: 答える</p> <p>T: 質問する S: 答える T: 説明する</p> <p>T: 質問する S: 答える</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤ ⑥</p> <p>⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リオデジャネイロオリンピック ・以前と比べてブラジルの輸出額は伸びている。 ・ブラジルの人口は増えている。 ・以前と比べてブラジルのGDPは増加している。 ・世界第7位 ・ブラジルは人口も増え、輸出額、GDPともに伸びる等、経済が発展してきたと言える。 ※スラム＝都市部にある貧困層の人々が住む地域。土地を不法に占拠し、居住している。ブラジルではファベラと呼んでいる。ブラジル国内で人口の6%にあたる約1200万人がファベラに暮らしており、その数は増え続けている。リオデジャネイロ市には約500カ所あり、市民の4人に1人がファベラで暮らしている。電気は通っていないが、富裕層が住む住宅街の電線から盗電をしている。 ・ブラジルは経済発展しているはずなのに、しっかりとした家で暮らしていない人がいる。
<p>◎なぜ、経済が発展しているのに、ファベラがなくなるのだろうか？</p>				
展開 10分	<p>〔2 学習課題を吟味する〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にはどのように書かれているのだろうか。 	<p>T: 指示する S: 教科書を読む。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルでは働く機会を求めて多くの人が集まり、急激に人口が増加した。 ・そうした住民の多くが賃金の安い仕事に就くようになった。

(8) 評価基準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する生徒への支援
同じ国の中に都市部とスラムがあり，経済発展という面で差があることに気づくことができる。さらに，他者と交流をする中で，ファベラがなくなる理由について，意欲的に表現しようとしている。	同じ国の中に都市部とファベラがあることを認識することができる。さらに，他者と交流をする中で，ファベラがなくなる理由について，表現しようとしている。	仮説①や②を考える場面を中心に机間指導を行い，アドバイスなどを通じて，学習を支援する。

(9) 仮説②に対する振り返りの視点

	S	A	B	C
内容	ファベラがなくなる理由を，物価の上昇だけでなく，経済格差（貧富の差）等，他の視点とからめて表現することができる。さらに，在り方（どうすればファベラがなくなっていくのか）の視点に立って，表現することができる。	ファベラがなくなる理由を，物価の上昇だけでなく，経済格差（貧富の差）等，他の視点とからめて表現することができる。	ファベラがなくなる理由を，一つの視点（例：物価の上昇など）から表現することができる。	ファベラがなくなる理由を表現できない。  <手立て> 本時で提示した資料の見直しを促したり，仲間のもを参考にさせたりする。

(10) 板書計画

なぜ，経済が発展しているのに，ファベラがなくなるのだろうか？

	【仮説①】	【仮説②】	
	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	→	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>
	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	→	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>
	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	→	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>

初台ボード A

初台ボード B

※この他にもテレビ画面を用いて，資料を提示していく。

8 本授業の検証

<授業前にやるべきこと>

- ・指導計画や指導目標にそった授業を行うこと。

<授業後にまとめること>

- ・生徒の視点の変化をホワイトボードやノートから分析すること。
- ・授業をボイスレコーダーやビデオで記録し、期待していた生徒の姿に近づけた授業であったかを検討すること。

9 資料・参考文献

- ・「中学校学習指導要領」(2008) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説」(2008) 文部科学省
- ・辰巳勝・辰巳眞知子「図説 世界の地誌」(2016) 古今書店
- ・「池上彰が注目するこれからの大都市・経済大国③」(2015) 講談社
- ・金七紀男「図説 ブラジルの歴史」(2014) 河出書房新社
- ・一般財団法人石油エネルギー技術センター第31回レポート(2014)
- ・ラジオNIKKEIマーケットレポート「日本の石油精製業、存続危機に？」(2014)
- ・丸山浩明編「世界地誌シリーズ6 ブラジル」(2013) 朝倉書店
- ・「帝国書院地理シリーズ 世界の国々7 南アメリカ州」(2012) 帝国書院
- ・堀坂浩太郎「ブラジル～飛躍の軌跡～」(2012) 岩波新書
- ・和田昌親「ブラジルの流儀」(2011) 中公新書
- ・アンジェロ・イシ「ブラジルを知るための56章」(2010) 明石書店
- ・ザイ・デッカー「ナショナルグラフィック 世界の国 ブラジル」(2010) ほるぷ出版
- ・中本和彦「地歴科地理・単元『ラテンアメリカ』の教育内容開発」広島県立教育センター(2001)